

スギ花粉ペプチド含有イネの栽培実験
(栽培実験期間：平成30年度)

確認項目	確認結果	
交雑防止措置について	○交雑防止措置について	農研機構生物機能利用研究部門の本栽培実験は、農研機構観音台第3事業場及び第4事業場隔離ほ場において隔離距離による交雑防止措置を取り、事業場内の同種栽培作物までの距離が30m以上であること、観音台第3事業場では事業場外の最も近い水田との距離は約200m、観音台第4事業場では250m以上であることを確認しました。
	○選定場所における風の影響について	栽培実験区画は、過去のデータから、イネの開花期における平均風速が毎秒3mを超えないことを確認しました。
	○開花前の低温により交雑の可能性が想定される場合の措置について	交雑の可能性が想定されるような低温にはならなかったことを確認しました。
	○モニタリング措置について	観音台第3事業場隔離ほ場に配置したモニタリング用の指標作物から採取した種子14,747粒を調査した結果、交雑が認められなかったことを確認しました。また、観音台第4事業場隔離ほ場に配置したモニタリング用の指標作物から採取した種子16,984粒を調査した結果、交雑が認められなかったことを確認しました。
混入・拡散防止措置について	○実験の種子、種苗の分別管理、野鳥等の食害による拡散防止について	実験の種子は遺伝子組換え実験材料である旨を表示した密閉容器に入れ、他の種子と区分して管理していることを確認しました。 隔離ほ場では、田植えから収穫まで防鳥網を設置して、野鳥等の食害による拡散を防止したことを確認しました。
	○栽培実験に用いた機械施設等の洗浄等について	実験区画内で使用した機械等は、同区画内で付着物を払い落とし、隔離ほ場内の洗い場で洗浄したこと、被服等は栽培実験区画付近で払い落としを行ったことを確認しました。
	○第1種使用規程承認作物の収穫物の管理について	収穫物は遺伝子組換え実験材料である旨を表示した密閉容器に入れ、他の実験の収穫物と区分して実験室内で保管・管理していることを確認しました。
	○栽培実験終了後の第1種使用規程承認作物等の処理について	栽培を終了した植物体の地上部は、地下部とともに裁断の上、水田への鋤込みにより不活化したことを確認しました。
	○第1種使用規程承認作物を栽培した区画での後作の収穫物の取り扱いについて	平成30年度は後作を行わないこと、また、次年度作として遺伝子組換えイネの栽培を予定しており、引き続き「第1種使用規程承認組換え作物栽培実験指針」に沿って取り扱うことを確認しました。
栽培実験に係る情報提供について	○計画書の公表について	平成30年2月27日にプレスリリースにより公表したこと、同日に農研機構のホームページに掲載されたことを確認しました。
	○説明会の開催等について	説明会を平成30年3月20日に開催し、8名の参加があったこと、また、見学会を12件(244名)行ったことを確認しました。
	○栽培実験の経過に関する情報提供について	説明会の開催を含め、本栽培実験の経過等について、12件の情報が農研機構のホームページに掲載されたことを確認しました。
	○栽培実験を終了した後の情報提供について	本栽培実験における収穫後の処理等について、平成31年1月10日に農研機構のホームページに掲載されたこと、また、本栽培実験の結果について、平成31年4月25日に別途開催した説明会において説明したことを確認しました。
栽培実験に係る管理体制の整備について	○栽培実験に係る管理体制の整備について	栽培実験責任者、作業管理主任者及び情報提供主任者を指名して管理体制を整備していることを確認しました。

(参考) 農研機構の栽培実験に係る情報提供について

「第1種使用規程承認組換え作物栽培実験指針」では、栽培実験の開始前から終了に至るまで適宜、情報提供することとしています。

平成30年度の本栽培実験に係る情報は、農研機構ホームページ(以下のURL)にてご覧いただけます。

http://www.naro.affrc.go.jp/laboratory/nias/gmo/news/gene_recombination/index.html

以下に、掲載されている情報の一部をご紹介します。



田植えの様子
(平成30年5月15日情報提供)



隔離ほ場の様子
(平成30年6月21日情報提供)



刈り取り作業の様子
(平成30年8月20日情報提供)